

## 地域医療再生学（寄附講座）の令和4年度活動報告

間島 直彦（地域医療再生学講座 主任教授）

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療再生学講座は、四国中央市が抱える地域医療の課題（医師不足、救急医療）に取り組むために、平成22（2010）年4月に愛媛県の寄附講座として愛媛大学医学部に設置されました。平成28（2016）年4月からは四国中央市の寄附講座として継続しております。

令和4年度は、整形外科は間島直彦（2014年度～）、小児科は平井洋生准教授（2021年度～）、脳神経外科は大塚祥浩助教、中村和助教（2022年度～）の4名のスタッフが、四国中央病院とHITO病院内のサテライトセンターを中心に活動しました。それぞれの専門性を活かし、診療、教育、研究とともに、宇摩圏域が抱える医療課題の解決に向けて様々な取り組みを実践しています。

整形外科は、四国中央市の救急外傷、関節疾患、高齢者骨脆弱性骨折の治療に取り組みました。HITO病院に設置した人工関節センター（2016年4月開設）では、四国中央市の皆様に人工関節の最先端医療を提供できる体制を構築しています。人工関節手術件数は順調に伸び本年は既に100件を超えており、県境を超えて受診される患者様も増加しています。また、HITO病院と協力して術後のロボットリハビリテーションを積極的に推進し、患者の早期退院や良好な機能回復を目指す臨床研究を行っています。

本年度も新型コロナウイルス感染症のため、本来行う予定であった市民講座や運動教室が開催できず大変残念な一年でした。自宅に引きこもっている高齢者にとって、今こそ継続的な運動療法や栄養指導が必要です。地元のケーブルテレビを利用して、自宅で簡単に行える運動・栄養教室プログラムを準備しています。来年から始まりますので、是非とも視聴し参加してください。

教育面においては、愛媛県の地域医療医師確保奨学生が、関連病院における研修として四国中央病院やHITO病院に派遣されています。サテライトセンターでは、各病院と協力しながらの若手医師の育成に取り組んでいます。

地域医療再生学講座では、専門医による専門医療を提供するだけでなく、地域の子供たちの健やかな成長や高齢者の健康維持に役立つ活動を継続してまいります。これからもご協力やご指導を宜しくお願い申し上げます。

## 小児科の活動報告

四国中央病院 小児科

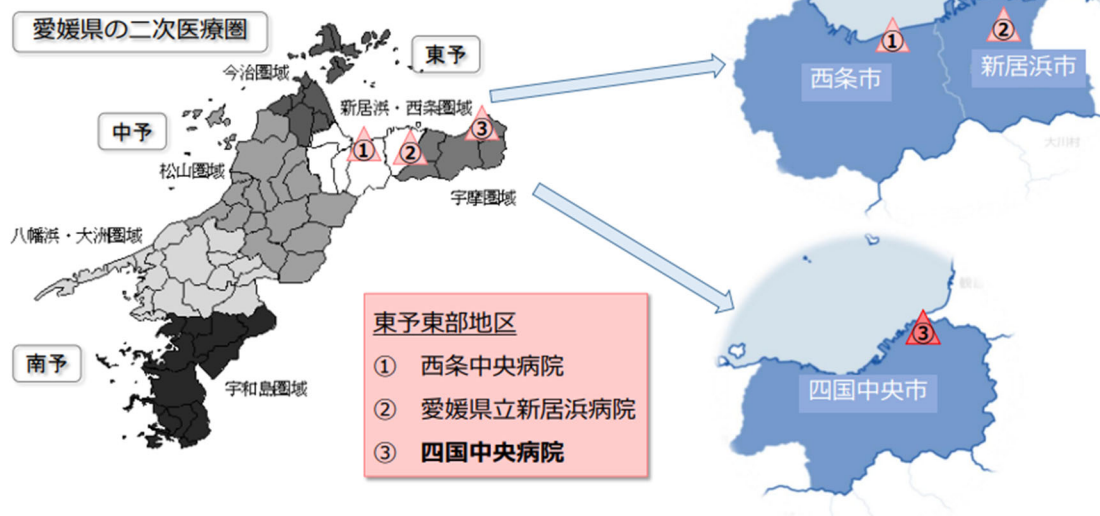
平井 洋生（地域医療再生学講座 准教授）

小児科部門は、四国中央病院にサテライトセンターをおいて、地域の健やかな子どもの成長を目標として、診療・教育・研究を実践しています。当院は地域の基幹病院として、そして四国中央市で唯一の小児科入院および分娩取扱い施設として地域医療に貢献しています。診療の特徴の一つは、リハビリとカウンセリングで、発達障害や不登校などの問題を抱える児の支援が社会的に求められる中、小児科医、看護師、ソーシャルワーカーが保健センターや学校関係者など多職種と連携して対応しています。

救急医療においては自治体の垣根を超えた東予東部の二次救急輪番体制を整備し、県立新居浜病院、西条中央病院と連携してその役割を担っています。また一次救急においても新居浜市や西条市と連携した体制が整備されつつあり、新居浜市急患医療センターの救急診療にも従事しています。

教育面では研修医や医学生等の教育にも従事し、市民フォーラムや研修会を通して正しい知識の啓蒙活動も実践しています。研究面では愛媛大学医学部とも連携して臨床研究にも取り組んでいます。また新たに愛媛県小児災害対策委員会、愛媛県児童虐待防止医療ネットワーク委員会、四国中央市子ども若者支援ネットワーク会議などにも参画し、地域の拠点病院としてますます重要な役割を果たしていきたいと考えています。

### 小児救急医療体制の整備 ＜東予東部小児救急医療システム＞



## 脳神経外科の活動報告

HITO 病院 脳神経外科

大塚 祥浩（地域医療再生学講座 助教）

中村 和（同上）

昨年ご報告させていただきました通り HITO 病院では令和 3 年度より SCU(Stroke Care Unit：脳卒中ケアユニット)を開設いたしました。SCU は脳卒中診療医を常時配置する必要があることから、本年度講座からは 2 名の脳神経外科を配属し、24 時間 365 日の脳卒中診療維持に努めました。

HITO 病院では宇摩地区のみならず、徳島県三好市や香川県三観地区など県外一部の地域からの救急搬送も積極的に受け入れており、これらの人口を合わせると約 20 万人の医療圏になります。コロナ禍により多くの病院が機能不全に陥り地域での診療に制限がかかる中で、当院でも急性期病棟の一部がコロナ専用になりましたが、脳卒中診療は大きな支障をきたす事なく行えました。これは SCU 開設の大きな成果と考えています。

脳血管疾患は本邦における死因の第 4 位、介護が必要となる原因疾患の第 1 位に位置している重要な疾患であり、特に医療・介護の人手不足が深刻な地方においては、診療体制の整備や地域住民への啓蒙活動が重要な分野です。脳梗塞の超急性期治療に対するニーズは特に高まっており、地域でも遅れを取らないよう今後も努めてまいります。

また昨年度尾崎が実施しておりました、NTT ドコモが提供する「5G を活用した映像伝送ソリューション(LiveU)」を用いた遠隔医療に関する実証実験（下図）について報告いたします。

現地とオンラインとのハイブリッド開催となりました STROKE2022 において、「5G 時代を見据えた高精細映像伝送システム「LiveU」による血管造影画像 の遠隔地へのリアルタイム転送」を主題にシンポジウムにて発表いたしました。

## LiveUを用いた遠隔医療支援に関する実証実験

